

伊豆東岸定置網における主要魚種の

令和4年上半期の漁況経過と下半期の漁況予測

1 令和4年上半期（1～6月）の経過

(1) 総漁獲量

伊豆半島東岸大型定置網7か統（伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津）における令和3年1～6月の魚種別月別漁獲量を表1に示しました。総漁獲量は3,212トンで、前年の1.6倍、平年（1982～2021年平均値）の1.2倍でした。特に1月の漁獲量は1,494トンで、記録のある1982年以降最高となりました。多獲された魚種は、マイワシ、さば類、ブリ、スルメイカ、マアジでした。

(2) 魚種別漁獲量（ブリ・マアジ・さば類・マイワシ）

(ア) ブリ

ブリ（ぶり、わらさ、いなだ、わかし）の漁獲量は242トンで、前年比1.4倍、平年比85%でした。銘柄別にみると、ぶりは41トンで、前年比44%、平年比40%でした。わらさは199トンで、前年比3.0倍、平年比2.3倍、いなだは2.5トンで、前年比41%、平年比22%、わかしは0.3トンで、前年比5%、平年比39%でした。漁獲されたブリは、1～2月はわらさ及びぶり（尾叉長測定データ無し）、3月は尾叉長70～80cmのぶり、4月から6月は60～80cmのぶり及びわらさが中心でした。

(イ) マアジ

マアジ（じんだ銘柄を除く）の漁獲量は88.2トン、前年比2.3倍、平年比21%（1982～2021年平均）と、2016～2021年の低水準（18～44トン）は脱却したようですが、低調な漁獲が継続しています。じんだ銘柄（小型当歳魚銘柄）についても、漁獲量は0.6トン、前年比75%、平年比10%と低調でした。

漁獲されたマアジは、期を通じて尾叉長15cm以上の1歳魚以上が中心であり、4～6月は5～14cmの0歳魚も認められました。

(ウ) さば類

ゴマサバの漁獲量は671トンで、前年の1.8倍、平年の1.9倍でした。月別では1月に387トンと半数以上が漁獲されており、前年比35.5倍、平年比8.9倍と前年、平年を大きく上回りましたが、3月以降は平年を下回る漁獲量となりました（図2）。漁獲されたゴマサバは尾叉長24～38cmでした。

マサバの漁獲量は321トンで、前年の2.3倍、平年の3.5倍でした。月別にみると、ゴマサバ同様1月に239トンと半数以上が漁獲されており、前年の62倍、平年の49倍でしたが、4月以降は平年を下回りました。漁獲されたマサバは1月から3月では尾叉長21～45cmでした。

サバッコ（さば類小型当歳魚銘柄）の漁獲量は29.8トンで、前年比2.0倍、平年比1.1倍でした。

(エ) マイワシ

マイワシの漁獲量は1,453トンで、前年の1.7倍、平年の6.7倍となり1982年以降では最高となりました。月別にみると、さば類同様1月に776トンと半数以上が漁獲されており、前年比223.4倍、平年比35.0倍でした。漁獲されたマイワシは1月が被鱗体長17～22cm、2～3月は被鱗体長16～17cmが主体でした。

表1 伊豆半島東岸大型定置網における令和4年上半期の月別魚種別漁獲量 (kg)

魚種名(銘柄)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	総計
ブリ(ぶり)	227	78	34,786	5,435	16	8	40,551
ブリ(わらさ)	1,082	10	35,589	120,338	2,564	39,012	198,594
ブリ(いなだ)	268	110	514	645	627	368	2,532
ブリ(わかし)	12	19	52	145	23	14	265
ヒラマサ	0	30	0	2,385	5,019	0	7,434
カンパチ	148	6	1	1	38	434	628
マサバ	239,406	37,337	14,850	9,233	14,905	4,957	320,687
ゴマサバ	387,247	109,999	7,230	43,850	76,290	46,239	670,854
さばっこ	19,165	156	302	1,239	8,368	589	29,818
マイワシ	776,308	307,012	269,271	87,832	12,323	40	1,452,785
カタクチイワシ	4	3,629	549	8,166	7,873	7,600	27,820
ウルメイワシ	7,177	823	1,696	58	0	39	9,792
マアジ	1,425	1,254	4,734	9,579	40,568	16,674	74,434
マアジ(小)	1,446	733	594	1,842	4,985	4,165	13,765
マアジ(じなだ)	0	0	1	25	122	429	575
オアカモロ	17,186	1	0	8	2	133	17,330
マルソウダ	16,618	116	18	37	973	2,420	20,181
イサキ	645	336	1,138	2,933	3,167	3,352	11,572
シイラ	0	0	0	1,464	15,538	13,596	30,598
インダイ	647	1,766	2,756	635	214	37	6,055
ムツ	8	152	79	256	878	1,829	3,201
トビウオ	0	0	2	364	975	1,548	2,888
サワラ	47	154	5,967	18,658	3,056	48	27,931
メジナ	188	265	632	3,142	2,184	875	7,286
サンマ	44	0	0	0	0	0	44
マルアジ	4	0	0	15	131	143	294
フグ類	3,245	1,728	1,062	373	531	363	7,302
ヒラメ	163	293	524	503	264	122	1,869
マダイ	134	74	758	1,126	486	485	3,062
ホウボウ	509	1,097	2,341	2,874	989	250	8,061
ウツラハキ・大中	17	486	5,137	3,134	112	39	8,924
アカカマス	569	9,019	3,129	2,993	3,371	7,720	26,800
クロマグロ	1,951	391	139	150	82	356	3,070
ウスバハギ	143	68	197	225	74	13	720
スルメイカ	7,338	61,034	40,582	19,882	7,165	1,522	137,524
スルメイカ(こいか)	0	0	0	0	2	6	8
ヤリイカ	104	621	173	147	26	6	1,076
アオリイカ	305	48	84	392	2,008	72	2,909
その他	10,255	2,888	8,115	4,379	3,212	3,687	32,536
総計	1,494,032	541,731	443,001	354,463	219,159	159,390	3,211,775

2 令和4年下半期（7～12月）の漁況予測

水産・海洋技術研究所伊豆分場は、神奈川県水産技術センターと共同で、令和4年下半期（7～12月）の伊豆東岸定置網における漁況を表2（※スルメイカは伊豆分場独自に予測）のとおり予測しました（令和4年9月1日発表）。

表2 伊豆半島東岸大型定置網における令和4年下半期の漁況

海況	黒潮は期間を通してA型で推移する。 沿岸水温は「平年並み」～「高め」で推移し、暖水波及時には「極めて高め」となることがある。
マアジ	来遊量は前年を大きく下回る。 魚体は尾叉長15～20cm及び20cm以上。
マサバ	来遊量はゴマサバに混じる程度。 魚体は尾叉長30cm前後。
ゴマサバ	来遊量は前年を大きく上回る。 魚体は尾叉長25～30cm及び30cm以上。
マイワシ	来遊量は前年並み。 魚体は被鱗体長10～15cm。
カタクチワシ	来遊量は前年並み。 魚体は被鱗体長7～9cm主体。
ブリ	来遊量は前年を上回る。 わかし・いなだ銘柄主体。
スルメイカ	来遊量は低調な前年並み。

・マアジ

マアジ太平洋系群資源量は2015年頃より低調に推移しています。伊豆東岸定置網漁獲量は、2010年頃より減少傾向で推移していましたが、2022年上半期は、2016～2021年の低水準期を脱却しました。下半期には、尾叉長15～20cmの0歳魚主体に、20cm以上の1歳魚以上も漁獲されます。下半期の漁獲尾数は、同年上半期の漁獲尾数と下半期の漁獲尾数の関係式で計算すると、2022年下半期の来遊量は、前年を大きく下回ると予測しました。

・マサバ

マサバ太平洋系群資源量は2013年頃から増加傾向で推移しており、伊豆東岸定置網漁獲量は2018年に400トンまで急増しましたが、その後は100～200トン台で推移しています。2001年以降、下半期の漁獲量は平均20トンと少なく、概ね尾叉長30cm前後主体に漁獲されています。昨年度は7月から伊豆山、古網地区を中心に、マサバの漁獲量が増加し、9月には100トンを超える水揚げがあったものの、今年度はその傾向がみられていないことから、2022年下半期の来遊量は例年同様ゴマサバに混じる程度（ゴマサバ漁獲量の1割程度）と予測しました。

・ゴマサバ

ゴマサバ太平洋系群資源量は2011年頃から減少傾向にあり、2017年以降は10万トン台と低調に推移しています。伊豆東岸定置網漁獲量も2013年に急減した後、微減傾向で推移していますが、2022年上半年は平年の3.5倍の漁獲がありました。2001年以降、下半期は尾叉長30cm以上主体に漁獲されていますが、昨年下半年は9月頃から25～30cmの割合が高かったことから、30cm以上に加えて25～30cmも多く来遊すると予測しました。上半期と下半期の漁獲量は比例関係にあり、この関係式と2021年上半年漁獲量から、下半期の来遊量は前年を大きく上回ると予測しました。

・マイワシ

マイワシ太平洋系群資源量は2010年頃から増加傾向で推移しており、伊豆東岸定置網漁獲量も2020年が約600トン、2021年が約800トンと好調に推移しています。2010年以降の下半期漁獲量は概ね100トン前後で推移しており、被鱗体長10～15cmの0歳魚主体に漁獲されています。相模湾における春季マシラス漁獲量とマイワシ0歳魚漁獲量は比例関係にあり、2022年3～6月のマシラス漁獲量は不漁だった前年をさらに下回る水準でしたが、前年8～12月の漁獲量は過去20年間で最も少ない水準であり、それを下回る可能性は低いと考えられることから、下半期のマイワシ来遊量は前年並みと予測しました。

・カタクチワシ

カタクチワシ太平洋系群資源量は2004年頃から減少傾向で推移していますが、伊豆東岸定置網漁獲量は2012年頃から減少傾向が認められ、2018年以降は低調に推移しています。黒潮A型流路が継続している2018年以降、主要定置網の8～12月漁獲量は数トンのレベルに留まっています。JCOPE 2Mによる黒潮長期予測(8月31日発表)によると、大蛇行は少なくとも11月上旬まで継続すると予測されており、今漁期も近年同様の不漁傾向が継続すると考えられることから今漁期の来遊水準を「低水準であった前年並」と予測しました。

・ブリ

ブリ資源量は2009年頃から増加傾向を示し、現在も高水準で推移していますが、伊豆東岸定置網漁獲量は2015年の1,000トンピークに減少傾向にあります。

下半期は、わかし・いなだ銘柄主体に漁獲されています。同銘柄の上半期と下半期の漁獲量は比例関係にあり、この関係式と2022年上半年のいなだ・わかし銘柄漁獲量から、2022年下半年の来遊量は前年を上回ると予測しました。

・スルメイカ

伊豆東岸定置網における漁獲の主対象は、冬季に道東・東北海域から南下してくるスルメイカ冬季発生系群です。同資源は2016年以降低調に推移していますが、

伊豆東岸定置網漁獲量は2018年以降、増加傾向にあります。伊豆東岸定置網における盛漁期は12～2月ですが、不漁期（資源・漁獲量低水準期）は3～5月が盛漁期となります。現在、資源回復の兆候はみられておらず、また、2022年9月の常磐～三陸海域の来遊量は前年並みと予測されていることを加味し、2022年下半年の来遊量は低調な前年並みと予測しました。

(岡田裕史)